

## 1 学校教育目標

- 1 礼儀を重んじ他を思いやる生徒（徳）
- 1 自ら考え創造する生徒（知）
- 1 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒（体）

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指す学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自己に厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 学力向上

全教員による授業改善・改革を実践することが課題である。学力の向上のみならず【育成すべき資質・能力の3つの柱】を意識した授業を展開していくことが必要である。何を理解しているか、何ができるようになったかを検証しながら、理解していること・できることをどのように使うかの視点に立った評価の方法も改善し、「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる主体的な学びに努めていく。国語・数学・英語については、教科指導専門員の指導により授業力の向上を図る指導を得られ、効果が確認されてきている。3年間での教師との信頼関係を築くことができる学校となっている。

### 2 不登校・不適応対応

不登校出現率が2%台前半で推移していることは成果である。特にSSWとの連携により、関係諸機関との解決方法をみつけ様々な課題に対応できたことは成果である。SC、SSWと連携した保護者支援も継続的に行っている。特別支援教室も開設され効果検証を行いながら発展させていく。不登校生徒数の減少に向け改善を図るために修学支援委員会を更に発展させていくことが課題である。

### 3 生徒指導の充実

個別に支援の必要な生徒が複数存在し、授業中においても相乗的にマイナス行動し指導が入らない場面が散見される。その場の現象にとらわれた指導を行うことも多く、指導に時間がかかることもあった。正しい行動を行っている生徒も多数いることから、それらの生徒を伸ばしながら集団としての成長を図っていくことが今後随時すすめていく。一人一人の教員が生徒一人一人の生育環境などを理解し、より個に応じた指導を展開できるスキルを身に付けていくことが求められる。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	不登校・不適応対応	○	○	○	○	○
3	教師の指導力の向上	○	○	○	○	○

## 5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標正答率・通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査の結果向上と授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末到達度確認テスト 正答率 63.0%</li> <li>令和3年度目標 区調査 通過率 60.0%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>到達度確認テスト結果 正答率 学校全体 56.7%</li> </ul>		確認テストにおいて正答率が目標としていた数値に7ポイントほど届くことができなかった。・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		○	
B 目標実現に向けた取組									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業力の 向上	全教科	通年	足立スタンダード授業の習得 学校及び学年共通指導の実践 教科指導専門員の指導・助言 ・授業分析(通年) ・板書撮影と発問記録による 授業分析 管理職の授業評価と指導・助 言 授業ビデオ撮影の実施	生徒の学びの スタイルアン ケート実施 管理職と教科 指導専門員に よる効果検証 授業3教科実 施	生徒アンケート 授業理解度 80% 授業意識調査 肯定的評価 80%	生徒アンケート実施 結果 理解度1年生 7月 65.8%→12月 74.8% 理解度2年生 7月 56.5%→12月 77.6% 理解度3年生 7月 55.8%→12月 74.7% 授業は楽しい 1年生 82.3% 2年生 72.4% 3年生 69.7%	生徒の理解度につ いて各教員の努力も あり学校全体として 80%には届かなかっ たが75.7%となり16 ポイント向上した。 授業の肯定的評価は 全体で74.7%と80% を達成できなかった が高い数値である。 授業内容の理解が 肯定的評価へ繋がり 更に理解を深める授 業展開の実践が課題 である。	○

2 改善	各種学力 調査の分 析に基づ く補習	5教科	通年	<p>【指導体制】 全教員による分析と対応</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 基礎・基本的な知識の着実な 定着と主体的な学びの定着</p> <p>【使用教材】各教科の教員が 教材を作成して使用する。 ○放課後補充教室の実施 区調査目標地未通過者 ・人選「あと2~3問正答す れば目標値通過生徒対象 無回答設問に着目 ・中間層の無回答者を人選 無回答設問に対応した補充 を行い未定着の改善を図る。</p>	<p>各学力調査の 終了後すぐに 分析を実施。</p> <p>2月に到達度 テストを実施 し通過率の向 上を見る。</p> <p>2月再調査を 実施し無回答 数の減少と正 答への向上。</p>	<p>それぞれの調 査で、正答率を 前年より上げ る。</p> <p>2月に到達度 テスト結果正 答率の向上 10%</p> <p>無回答者の減 少50% 正答への変化 20%</p>	<p>区調査7月実施 都・国調査実施中止 2月到達度テスト結 果(次年度学年問題) 1年生 正答率 3教科 67.6→59.6%</p> <p>2年生 正答率 3教科 55.4→53.6% 無回答者は減少した が無回答の設問は存 在した。</p>	<p>正答率は1年生の数 学が数値を15ポイン トほど向上させてい る。国語も維持して いるが英語に課題が あることが見づか った。</p> <p>3教科合計としては 10%の向上を達成で きななかったが、大き な落ち込みは見られ なかった。</p> <p>現在放課後を有効活 用し補充しており、 学年が進級しても継 続し実践していく。</p>	○
3 改善	家庭学習ノ ート	任意の教 科	毎日	<p>【指導体制】 全学年全学級で実施</p> <p>【取組のねらい・目的】 学習習慣を身に付け、確かな 学力の定着を図る。</p> <p>【使用教材】 学校での学習教材 学力中間層以下の生徒 授業で学習した内容につ いての復習を中心とした内容 とする。</p>	<p>○家庭学習ノ ートの提出率 ○「学習習慣」 「学力向上」 について自己 評価させる。 ○家庭学習ノ ートが授業内 容とマッチし ているか確認 させる。</p>	<p>○全校での提出 率80%以上 ○「学習習慣の 定着」「学力向上 への影響」と肯 定的な回答 90%以上。 ○家庭学習で学 校の授業内容の 実践 70%。</p>	<p>○家庭学習ノートの 提出率が低調で33% 程度となった。 ○家庭学習習慣 肯定的意見(生徒) 1年生 66.1% 2年生 77.6% 3年生 87.6% ○授業内容の実践 肯定的意見(生徒) 1年生 89.2% 2年生 91.6% 3年生 91.9%</p>	<p>家庭学習ノートの提 出率が低い結果とな った。</p> <p>家庭学習を行っている という肯定的な意 見が多く、授業内容 の実践として宿題の 提出率も悪くない が、宿題以外での家 庭学習を実践させて いくことが、課題で ある。次年度に向け 取組を向上させてい く。</p>	△

4 新規	放課後補 充学習 25分× 週4回	5教科	月火木 金 25分 ×週4 回	【指導体制】 全学年の教員	定期的な確認 テスト等を実 施する。 2月到達度テ ストを行う	生徒アンケー ト肯定的回答 80%	放課後学習を年間各 学年とも計画的実施 8割実施となった。 アンケート結果 「先生は悩みや心配 に耳を傾けてくれ る」項目肯定的意見 学校全体 88.9% Eライブラリーを活 用した補充学習を行 っている。	今年度より開始した 放課後補充学習であ るが、意欲的に参加 した生徒がほとんど であった。 次年度も同様に取り 組んでいく。継続し て学力の定着を図る ことと学力の向上が 課題である。	◎	
				【取組のねらい・目的】 学習習慣を身に付け、確かな 学力の定着を図る。						【使用教材】 学力中間層以下の生徒 タブレット端末を使用 Eライブラリーにある教材 未定着学習内容と復習を中 心とした内容とする。
<b>重点的な取組事項－2</b>		不登校・不適応対応								
<b>A 今年度の成果目標</b>			<b>達成基準</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>		<b>達成度</b>	
生徒一人一人の心の教育			学校評価による数値の向上		全体として90%前後の数値を示す ことができた。特に生徒の数値が 高い結果となった。		今年度中に大きな行事 がない中でこのような 大会数値を示せたのは 教職員の努力の結果で ある。 来年度も継続し生徒の 健全育成に全力で当た る。		◎	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>										
<b>項目</b>		<b>達成基準</b>		<b>具体的な方策</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>		<b>達成度</b>

<p>○心の教育の充実</p> <p>○いじめ防止</p> <p>○道徳授業の充実</p>	<p>・学校評価による心の育成についてB評価以上90%</p> <p>・自己肯定感の調査で、肯定的評価の生徒90%</p> <p>・いじめ防止活動アンケート集計肯定的評価90%</p>	<p>○QU調査年間実施2回</p> <p>○生徒会と保護者地域連携あいさつ運動</p> <p>○生徒会「いじめ根絶」活動の実施</p> <p>○外部指導者を招きオリパラ教育や特別授業を実施</p> <p>○道徳公開授業の充実</p>	<p>○QU調査年間実施2回実施結果 学校生活満足群 1年生61% 2年生57% 3年生52%</p> <p>学校評価「先生は悩みや心配に耳を傾けてくれる」肯定的意見 生徒 保護者 学校全体 88.9% 88.1%であった。</p> <p>○あいさつ運動は年1回であるが実施できた。</p> <p>○いじめ防止アンケート。 学校評価「いじめのない生活を送っている」肯定的意見 生徒 保護者 学校全体 94.5% 91.9%</p> <p>○オリパラ教育ではパリアン招いた学習ができた。</p> <p>○3学年共通の道徳授業実践を行った。</p>	<p>QU 結果に関しては4つの群の中で半数以上が満足群に存在している。全国の平均と比べても高い数値であった。</p> <p>学校評価の保護者意見では平均で88%と90%に近い数値であり評価できる。</p> <p>いじめに関しても年間を通して数件であり、解決ができており、学校評価の生徒・保護者の意見に関しても90%を超える高い数値となった。</p> <p>今後も生徒の成長を信じ寄り添い指導を進め生徒・保護者との信頼関係を構築していく。</p>	<p>◎</p>
<p>○不登校児童への対応</p>	<p>・学校評価「子供は六月中の生活に満足している」項目B以上90%</p> <p>・不登校生徒の登校支援をすすめる継続的な関係づくりと定期面接の実施</p>	<p>○特別支援委員会とケース会議の計画的実施</p> <p>○SSW, SCの有効活用</p> <p>○学校での居場所づくり</p> <p>○保護者、地域関係者との連携</p>	<p>○学校評価「子供は六月中の生活に満足している」 保護者 肯定的意見 1年生 89.3% 2年生 94.7% 3年生 92.3% 学校全体 92.1%</p>	<p>学校評価肯定的な意見より保護者は六月中学校の教育に関して理解をしていると考えられる。今後もより一層の努力を重ねていく。</p>	<p>◎</p>
<p>○全校体制での生徒への個別支援</p>	<p>修学支援委員会の年間35回以上実施</p>	<p>○毎週木曜3校時に修学支援委員会を実施</p> <p>○SC・SSWと不登校、不応生生徒の情報の共有化を図る。</p> <p>○特別支援教室との個別支援の連携充実を図る。</p>	<p>○年間を通して毎週木曜日に実施できた。</p> <p>○SSW・SCだけでなくこども支援センターげんき登校支援主事も交え情報交換を実施した。</p> <p>○修学支援委員会には巡回指導員も出席した。</p>	<p>年間を通して学校関係者の協力を経て、生徒の個別支援を実践できた。不登校生徒や不登校傾向の生徒が存在していることは事実であり、次年度以降も丁寧な指導を重ね改善に努めていく。</p>	<p>○</p>

重点的な取組事項－3		教師の指導力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師一人一人の指導力向上		教師一人一人の指導力向上について下記の2項目を達成する	管理職による授業観察、全教員×3回を実施。定期的教科指導専門員による授業観察を実施。	年間計画として指導略案に基づいた授業観察を行う事ができた。次年度も継続して実施していく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
資質・能力の向上	都 OJT ガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 ・基礎形成期の目標達成 ・職層に応じた職務の遂行 ・共通理解と共通行動	○校長主催研修の定期実施 ○転入・新規採用教員研修の実施 ○自己申告書授業参観、面接を重視 ○区中研への全員参加 ○都研修センター主催研修への参加 ○教師道場公開授業参観と校内還元公開授業の実施	○服務事故研修を含め定期的に研修を実施した。 ○転入・新規採用教員研修は計画的な実施はできなかった。 ○自己申告時の授業観察、協議、面接は全教員全3回の実施を計画的に行う事ができた。 ○都研修センターや教師道場公開授業などの参観は実施できてなかった。	服務事故研修は計画通りの実施と共に臨時に実施する事ができた。東京都等の研修に関しては感染症の影響により参加させることができなかった。自己申告時の授業観察と面談にて授業内容と展開について検討協議を進める事ができた。	△
指導力・授業力の向上	・授業の基本の確立 ・統一された学びのスタイルの習得と確立 ・管理職による授業評価4段階 B以上 90%以上 ・生徒の授業満足度 90% ・保護者授業参観アンケート「改善を要する」5%以下 ・学校評価項目 90%	○足立スタンダード授業の習得と実践 ○学校及び学年共通指導 ○教科指導専門員の指導助言 ・授業分析（通年） ・板書撮影と発問記録による授業分析 ○特別活動の充実 ○年間区中研への全員参加 ○都主催研修への参加 ○指導教諭公開授業参加と校内還元研修の実施	○足立スタンダード授業実践生徒アンケート 肯定的意見ねらいの提示 92.5% 振返りの実践 85.7% ○教科指導専門員との連携は授業観察時における授業撮影と指導案提出時の板書計画を全教員に行った。 ○保護者授業理解度アンケート結果「理解できていない」10.8% ○研修には参加させられなかった	足立スタンダード授業に関しては、生徒の肯定的意見が高い結果となった。今後も授業展開における主体的対話的な学びと見方考え方を働かせる深い学びを実践していくことが課題である。	○
6 まとめ					
(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性					
ア 学力向上アクションプランについて					

### 【成果と課題】

授業の理解度に関し学校全体として75.7%であり教師の努力により16ポイントほど7月に比べ12月は向上している。ただし2月に行った到達度確認テストでは学校全体として正答率が56.7%であり、授業内容の確実な定着というところに課題が残る。

2月到達度テストにおいて1年数学は正答率68.8%であるが2年生45.7%であった。また英語においては1年生が正答率49.8%であり2年生は54.2%と学年や教科により定着の状況に差がある。

授業は楽しいと考えている生徒は74.8%であり、宿題の実践も90%と高いが、課題は宿題以外の自主的な家庭学習の実践である。

### 【対策】

＜授業実践＞授業において「何を学ぶのか」という見通しをもたせるための「ねらい」や「学習課題」を必ず提示し「何が分かったのか」という振り返りの実践を行っていく。全教科において共通実践することで「その授業で何を学んだのか」を定着させていく。

＜補充学習＞週時程表に示されている補充教室を年間を通し計画的に実践する。対象生徒を「学年全体」「希望者」「選抜」など教科や実態、時期に応じて組み合わせ、生徒の定着の実態に応じて対応していく。

＜家庭との連携＞家庭学習において宿題のみならず、授業内容を家庭学習ノートの実践に結びつけて行うなど、自主的な家庭学習を促していく。プリントを宿題とした際にはその提出だけではなく、取組内容においても補充教室において振り返りを行うなど定着を図る。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

生徒自己診断アンケート結果では「学校が楽しい」と回答した生徒が95.5%であり、保護者アンケートでは「子供は六月中の生活に満足している」に92.1%が肯定的回答でした。生徒一人一人に目を向け寄り添い指導に当たっている教師集団です。安心して安全な学校生活を送ることができる環境を今後も作り上げていきます。ご家庭との協力のもと確かな学力を身に付け、自身の進路選択を自らの考えと判断の下に選択していける能力や態度を育成し社会に貢献していくことのできる生徒へと成長させていきます。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

小中一貫教育を意識した系統的、計画的であり意図的な小中連携を近隣小学校と実践していくことで、充実した接続教育を行っていく。